

◎サルシの坂の  
目一ツ五郎

# 上西だより

～上西校区集落支援員だより～

西之表市地域支援課  
上西集落支援員  
馬場 信一 編集  
連絡先090-9579-3953  
上西校区長責任発行

花里崎神社を大崎・国上方面に10mほど進みと右手に上り坂がある。（下写真）この坂をサルシの坂と呼ぶ。この坂は、昔から妖怪が出るといってとでたいへん恐れられていた。それは、次のようなことがあったからである。



サルシの坂

市街地方面

至ル大崎 至ル国上 至ル国上



サルシの坂

当時の雰囲気想像させる道の跡（今は使われていない）  
（この写真は上の地図の○の場所で撮影）

明治のことである。ある日、状持ち（郵便屋）が夜中にこの坂を上っていたら、下の川から男が出てきて、うるうるしていた。そして、こう言うのである。



「お前はどけー行くか。よろうて（一緒に）行こうじゃなかか。」

この人は夜道を一人で歩くには心細いのだろうと思ひ、状持ちは先を歩いてやった。

今の時代に比べて明かりがないころである。木々の生い茂った暗闇のすきまに見える空の星明りだけが頼りである。

状持ちが急げば、向こうも急ぐ。ゆっくり歩けば、ゆっくり歩く。先に行こうとはしないので不思議に思った。

坂の途中の切通し（山や丘などをけずって、人馬が歩けるようにした道）にさしかかったとき、状持ちはこらえ切れずに振り返った。ピカーッ。

目もくらむような光である。二つあるはずの男の目が真ん中に一つしかない。その目から光は放たれたのである。腰を抜かさんばかりの状持ちは、ほうほうの体で国上にたどり着いた。

（参考「ふるさと歴史散歩 上西校区編」改作）